



---

平成31年度  
ウチナーンチュ子弟等留学生  
修了報告書

---

沖 縄 県



## はじめに

ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟や本県と縁が深いアジア諸国等から優秀な人物を県内の大学や企業・団体、伝統芸能修得機関等で修学・研修させるものです。

その中で、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、企業等での実務経験、県民との交流を行うことで、沖縄への理解と愛着をさらに深め、将来的に本県と出身国との架け橋になる人材を育成することを目的としています。

本事業は、昭和44年度（1969年）にボリビアからの留学生1名の受け入れから始まっており、これまでに667名の留学生を受け入れてきました。留学生は沖縄の歴史や文化の理解者として、帰国後、それぞれの地で本県との架け橋となり活躍しています。

令和元年度は、ブラジル2名、ペルー1名、アルゼンチン2名、ボリビア2名、カナダ1名、米国1名、韓国1名、中国（福建省）1名、台湾1名の合計12名を受入れました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学や研修先での成果等をまとめたものです。様々な経験を経て成長した姿をご覧いただき、本事業理解の一助となれば幸いです。

また、沖縄県では、10月30日を「世界のウチナーンチュの日」と制定し、世界に広がるウチナーネットワークの継承・発展・強化を目指して、様々な事業を実施しており、毎年この日を中心に世界各地の県人会等でも関連する取組が行われています。このネットワークは県系人に限ったものではなく、沖縄に縁のある全ての人々をつなぐものであり、留学生の皆様には、帰国後はこのネットワークの中心となって、世界のウチナーネットワークの次世代への継承と発展に貢献して頂くことを期待しています。

最後に、本事業実施にあたり、留学生を受け入れていただきました、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学、国際言語文化センター、松本料理学院、JICA 沖縄、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長  
新垣 健一



# 目次

## ○ウチナンチュ子弟等留学生（12名）

- 私の沖縄生活  
アーナット・アダム・タモツ（アメリカ）…………… 9
- 変わった1年  
大田弥生（ボリビア）…………… 13
- 飛べよ  
ワンリージン（台湾）…………… 17
- 夢のような思い出  
盧雪嬌（中国）…………… 21
- 1年の特別でやりがいのある留学生活  
ファンキョンソン（韓国）…………… 23
- 「350日間の旅」  
上地メリサ（ボリビア）…………… 25
- カナダ県費留学生の一年  
パターソン真理子（カナダ）…………… 28
- 沖縄の伝統空手  
マンゲス英明（ブラジル）…………… 31
- 人生で最高の経験  
新門 マルティン アンドレス（アルゼンチン）…………… 34
- 沖縄の思い出  
金城 ルッカス 秀樹（ブラジル）…………… 49
- 一年のいっぱい経験  
安富祖 末吉 アレハンドロ（ペルー）…………… 55
- 思い出の年  
仲宗根ルシア（アルゼンチン）…………… 62



平成31年度ウチナーンチュ子弟等留学生 副知事表敬 平成31年4月25日 於：沖縄県庁

# ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業概要

## 【目的】

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能修得機関で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

## 【事業のあゆみ】

1900年、本県から世界各国への海外移住が始まって以降、その移住者たちは各国で県人会などの独自のコミュニティを作り活動している。そういった海外移住者の子弟を対象とし、沖縄県が昭和44年に海外留学生受入事業を開始、ボリビアからの県系人子弟留学生を受入れて以来、「アジア諸国等留学生」等を含め、これまでに15カ国1地域からのべ667人を受け入れている。

## 【事業内容】

本事業では、留学生は「科目等履修生コース」または「伝統芸能修得コース」にて就学・研修を行う。

### ① 科目等履修生コース

A: 日本語＋科目選択 (1年)	県内の各大学で科目等履修生として就学します。
B: 日本語＋科目選択＋企業等研修 (6ヶ月) (6ヶ月)	科目履修修了後、実際に県内の企業に入って研修します。

### ② 伝統芸能修得コース

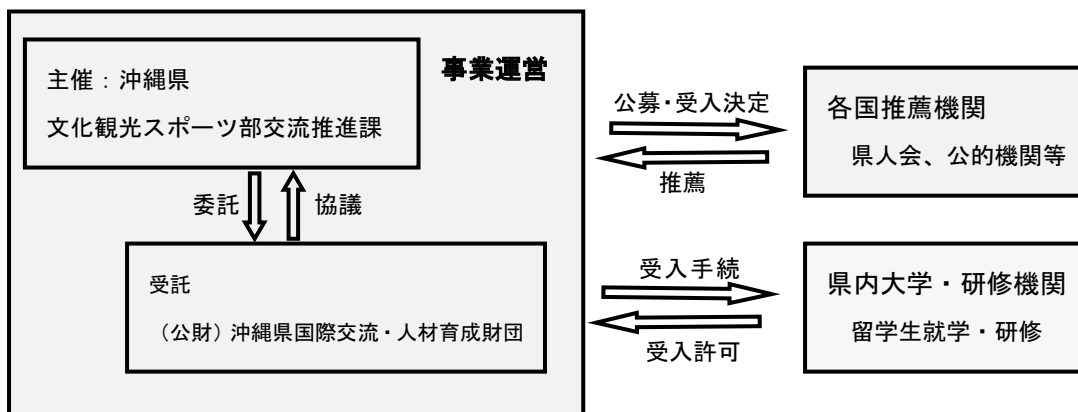
日本語学校＋伝統芸能・工芸研修 (3ヶ月) (9ヶ月)	県内の日本語学校で3ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で9ヶ月間技術研修を実施します。 ※日本語学校は研修生の語学力により判断します。
紅型、三線製作、琉球料理(沖縄料理)、太鼓製作等	

## 【運営体制】

沖縄県からの委託をうけて、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団(以下「財団」。)が沖縄県と連携しながら当事業を実施した。

留学生の選考・決定については、財団が各国の推薦機関へ留学生を公募し、推薦のあった候補者から県と協議のうえ決定した。

受入が決定した後、各々の大学や研修機関へ出願、受入許可を得て就学・研修を行った。



## 【本年度の主な取り組み】

4月初旬	ウチナンチュ子弟等留学生来沖、 修学/研修、沖縄での生活の準備	
4月12日	研修① 留学の目標設定・オリエンテーション	財団
4月25日	沖縄県副知事表敬 研修② 沖縄県の施策説明	沖縄県庁
6月12日～24日	ネットワークパネル展示	沖縄県立図書館
6月23日	研修③ 平和学習研修	平和祈念公園
8月9日	研修④ 歴史学習研修	県立博物館
8月14日	研修⑤ウチナーネットワーク情報発信研修	財団
9月2日～4日	研修⑥ 伊江島民泊研修	伊江島
11月15日	研修⑦ 文化体験研修	那覇市内各所
12月20日	研修⑧ 広島事前学習	財団
1月17日	研修⑨ ふりかえり会	財団
2月17日～20日	研修⑩ 広島研修	広島市内各所
3月2日	研修⑪留学・研修報告会	
3月13日	ウチナンチュ子弟等留学生 修了式	沖縄県庁
3月中旬～下旬	留学生 帰国	

※この他、県内外で実施された交流・協カイベントに参加

※研修⑪の留学・研修報告会は諸般の事情により中止



## 【プログラムの概要】

### ◆ 副知事表敬

【日程】令和元年4月25日 【場所】沖縄県庁

【目的】副知事を表敬し、1年間の留学生活における抱負を述べる。

【内容】謝花副知事を表敬し、自己紹介や沖縄での留学生活の目標などを一人ずつ緊張しながらも日本語や沖縄方言を用いて発表しました。謝花副知事からは、学校生活だけでなく沖縄の自然や人々ともふれあい、この1年間の留学生生活を有意義に過ごしてほしいと激励の言葉を頂いた。



### ◆ ネットワークパネル展

【日程】令和元年6月12～24日 【場所】沖縄県立図書館 3階・5階

【目的】出身国・地域について広く県民に伝える。

【内容】6月18日の「海外移住の日」に合わせて毎年行われる「移民パネル展」のため、留学生が各々の国のパネルを作成した。

出身国ごとに個人やグループで作成したパネルは、県立図書館にて12日間の間展示を行った。

### ◆ 通年研修(全11回)

※研修⑪の留学・研修報告会及び修了式・懇親会は諸般の事情により中止

#### (1) オリエンテーション及び留学の目標設定

【日程】令和元年4月12日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】留学期間中の目標や沖縄との親善の交流においてどのような役割を担いたいかを考える。

【内容】大学・研修機関についてのオリエンテーションを行い、それぞれの留学生活における注意点などを確認した。オリエンテーション後、自己紹介をし、1年間の目標を設定し発表した。



## (2) 沖縄県の施策説明

【日程】令和元年4月25日 【場所】沖縄県庁

【目的】沖縄県の実施する国際交流事業や留学生に期待されていることを知る。

【内容】沖縄県が実施する国際交流事業や、ウチナーンチュ子弟等留学生に求められていることなどの説明をうけ、子弟等留学生という自国と沖縄のかけ橋として何ができるかを認識した。

## (3) 平和学習研修

【日程】令和元年6月23日(慰霊の日) 【場所】沖縄県平和祈念公園・資料館

【目的】沖縄戦の特徴や戦後の沖縄の様子を学ぶ。沖縄戦没者追悼式典への参列。

【内容】平和祈念資料館を見学し、沖縄全戦没者追悼式典に参列することで、沖縄戦について考えた。その後、豊見城市にある貸会議室へ移動し戦争体験者である吉嶺善一さんに戦争体験について講話頂いた。



## (4) 歴史学習研修

【日程】令和元年8月9日 【場所】沖縄県立博物館・美術館

【目的】沖縄県の歴史の概略を通し、現代の沖縄がどのように形作られたかを知ること、本県の歴史・文化に理解を深める。

【内容】研修では講師に沖縄大学客員教授 新城俊昭先生をお招きし、沖縄大学客員教授の新城俊昭氏より、「琉球」と「沖縄」の呼称の違いは何か。沖縄の人々が歩んだ本土復帰までの道のりも交え講話頂いた。本県と留学生の出身地を含めた海外とのつながりやそれにいたる歴史的な流れについても知ることができた。その後、沖縄県立博物館・美術館の展示を見学し、ワークショップで学んだことを思い返しながら各自で展示を見学した。



## (5) ウチナーネットワーク情報発信研修

【日程】令和元年8月14日

【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】「ウチナーネットワークについて考える」の情報発信スキル向上研修を行いPPTやSNSを活用した情報発信に関するセミナーを受講しウチナーンチュ子弟等留学生として公の場において発表する際の事前準備を行う。

【内容】10月30日の「世界のウチナーンチュの日」のシンポジウムにて、県民に向けてPPTを使って自国における県人会等沖縄関係の活動を紹介する為、PPTでの効果的な発表の仕方などについて研修を行った。

## (6) 伊江島民泊研修

【日程】令和元年9月2日～4日

【場所】伊江島(伊江村)

【目的】沖縄県民の生活を体験し、県民との交流を図り、沖縄の自然・文化に触れることで、帰国後、出身国と本県との架け橋となる人材としての素養を養う。出身国での沖縄文化の発信やオキナワのコミュニティの振興に寄与していくためのヒントを得る。

【内容】伊江島観光協会が実施する民泊事業を利用し、2泊3日の行程で民泊体験(ホームステイ)を行った。受け入れて頂いている島民の方々のお宅では学生と一緒に沖縄料理の体験やブクブク茶体験、魚の養殖を行っているお宅では魚への餌やりなど、本島では体験することのできない時間を過ごした。島民の方々とはこのホームステイを通し言葉や文化を超えて人と人との繋がりを感じることもできる研修を実施することができた。



## (7) 文化体験研修

【日程】令和元年11月15日 【場所】那覇市内各所

【目的】本県の地域住民の生活や伝統的な文化について知り、体験することで理解を深める。

【内容】那覇市観光協会が実施する「那覇まちま〜い」を利用して、那覇市街をガイドとともに散策した。訪れた公設市場ではどのようにして発展していったかなど、商店街やその周りの通りの歴史について写真などを用いてガイドの方に説明して頂いた。  
まちま〜い後は、那覇市伝統工芸館にて小さなトートバックに紅型の色付けを体験した。同じデザインを選んでいても学生達の付ける色はそれぞれで学生達の個性がみられた。



## (8) 広島事前研修

【日程】令和元年12月20日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】今年度は県外研修地として広島が選ばれた。広島での研修を実施するにあたり、広島県について歴史等の基礎知識を学ぶ。

【内容】広島県に関する基礎知識として日本国内で最も多く海外移民を輩出している県であること、第二次世界大戦時には原子力爆弾が投下された事だけでなく、世界遺産に登録されている厳島神社などもあり沖縄とはデザインなどが異なる建造物や戦争での歴史などを知り、実際に広島を訪れた際に自分自身の目で見て学ぶ事ができるよう、理解を深めた。

## (9) 留学の振り返り

【日程】令和2年1月17日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】1年間の留学・研修で得たものを確認・共有するとともに、帰国後それらをどのように活かすことができるかを考える。

【内容】来沖時に設定した目標を再度見返し、どのくらい目標を達成できたかなどを各自で記入してもらい、当時の自分の目標と達成度を比較する時間をもった。

## (10) 県外研修(広島)

【日程】令和2年2月17日～20日

【場所】広島市内各所

【目的】沖縄県だけでなく、日本の伝統的な歴史に触れ、本県独自の文化と日本本土の伝統文化を比較し双方の歴史・文化についてより深く理解・考察する。

【内容】広島では、事前研修で学んだことを参考にしながら、旧日本銀行広島支店資料館、豊国神社、五重塔、厳島神社、大願寺、広島城天守閣、原爆ドーム、平和記念資料館、大和ミュージアム等をガイドの方に説明頂きながら視察を行った。ガイドの方による細かな説明により、広島歴史についても知識を深めることができた。



## (11) 平成31年ウチナンチュ子弟等留学生 修了式

【日程】令和2年3月13日

【内容】今年度の修了式は、沖縄県庁でおこなった。早期帰国した学生もいたが、副知事から修了証書を受け取り無事に1年の研修を終えることができた。留学生代表挨拶では上地メリサさんが「短い留学ではあったが、自分たちの人生の中でかけがえのない経験ができた。この機会を与えてくれてありがとうございます。」と感謝の言葉を述べた。

【場所】沖縄県庁

### <修了式>

1. 開会
2. 留学生紹介
3. 修了証書授与 沖縄県副知事 富川盛武
4. 式辞 沖縄県知事 玉城デニー  
(代読 沖縄県副知事 富川盛武)
5. 留学生代表挨拶 上地メリサ  
(ポリビア多民族国、琉球大学、JICA 沖縄にて修学)
6. 写真撮影
7. 閉会



# 2019年度 ウチナーンチュ子弟等留学生名簿



**アダム タモツ  
アーノット(24歳)**

国・地：アメリカ合衆国  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**クリスティーナ 真理子  
パターソン(26歳)**

国・地：カナダ  
留学先：沖縄国際大学  
外国人科目等履修生  
Aコース



**大田 弥生(29歳)**

国・地：ポリビア多民族国  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**マンゲス 英明  
エドアルド(24歳)**

国・地：ブラジル連邦共和国  
留学先：沖縄国際大学 / 観光産業関連企業  
外国人科目等履修生  
Bコース



**王 樞埭(28歳)**

国・地：台湾  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**新門 マルティン(33歳)**

国・地：アルゼンチン共和国  
留学先：県立芸大（工芸・陶芸）  
外国人科目等履修生  
Aコース



**盧 雪娇  
(ルー シュエチャオ)(33歳)**

国・地：中国・福建省  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**金城  
ルッカス 秀樹(25歳)**

国・地：ポリビア多民族国  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**ファン  
キョン ソン(25歳)**

国・地：韓国  
留学先：琉球大学  
外国人科目等履修生（共通）  
Aコース



**安富祖 末吉  
アレハンドロ(34歳)**

国・地：ペルー共和国  
留学先：県立芸大（琉球芸能・音楽）  
外国人科目等履修生  
Aコース



**上地 メリサ(21歳)**

国・地：ポリビア多民族国  
留学先：琉球大学 / JICA 沖縄センター  
外国人科目等履修生（共通）  
Bコース



**仲宗根 ルシア  
ミカエラ(20歳)**

国・地：アルゼンチン共和国  
留学先：松本料理学院  
沖縄料理  
伝統芸能コース

# 私の沖縄生活

アーナット・アダム・タモツ (アメリカ)

琉球大学

六年前、私は沖縄をぜんぜん知りませんでした。私は沖縄のルーツを持っているのですが、沖縄の文化や音楽を知りませんでした。ある日、私は私の沖縄ルーツを調べることを決めました。その年にロサンゼルスで、ウチナーンチュ若者大会があることを見つけました。私はロサンゼルスのウチナーンチュ若者大会に行くことを決めました。このイベントで私の沖縄アイデンティティを見つけました。例えば、沖縄の文化や音楽を学びました。このイベントの後、沖縄をもっと学びたい。だから、ロサンゼルスの沖縄県人会に参加しました。県人会で沖縄をもっと学びました。数年後、沖縄に初めて行きました。私は世界ウチナーンチュ大会に参加しました。行った時に沖縄の親戚を見つけました。ロサンゼルスから帰る後、沖縄をもっと体験したいと思い、県費のプログラムを聞いたことがあるので数年後に県費を申し込みました。

## 琉球大学

今、私は沖縄で一年ぐらい住んでいます。沖縄滞在中に私はたくさん学びました。琉球大学で日本語を勉強しました。私は私の日本語スキルを改善しました。私は地域の人々と日本語で話すことが出来ました。親戚や友達と話すことができ私はとても嬉しかったです。琉球大学で沖縄歴史や沖縄文化やウチナーグチも勉強しました。この授業で沖縄についてたくさん新しいことを学びました。授業でたくさんの修学旅行にも行くことが出来ました。例えば、瑞泉酒造に行って泡盛の作り方を見たり、糸数アブチラガマに行って第二次世界大戦中にウチナーンチュが隠れなければならなかった場所を見に行ったりしました。この修学旅行が私の色々な沖縄の場所を体験する助けになりました。

授業で沖縄について学ぶのは良かった、私は沖縄でロサンゼルスの沖縄コミュニティについて共有したい。沖縄の歴史と文化の先生は他の大学で英語と沖縄歴史と文化を教えています。先生は、私が参加



しているヌクレオチド沖縄県人会の事を、別の大学で教えたいと、4つの授業でロサンゼルスの沖縄県人会のプレゼンテーションをしました。この授業で皆ウチナーンチュの日本の学生だけと移民のウチナーンチュはあまり知らなかったようで皆が私のプレゼンテーションが面白かったと言ってくれました。ロサンゼルスの沖縄県人会について共有し、世界のウチナーンチュコミュニティについて地元の人々に紹介できて良かったです。



## 親戚

沖縄に来た時、飛行機で少し緊張しましたが沖縄に着いた時、親戚と友達が私に会いに来てくれたので、安心しました。叔父が空港まで迎えに来てくれて、もう一つの親戚の家に行きました。親戚は私のために歓迎パーティーをしてくれました。南風原の親戚全員が来ました。私はとても嬉しかったです。沖縄の親戚は二年前に一度だけしか会っていませんでしたが、皆私を家族のように扱ってくれました。

沖縄滞在している間、私の親戚はいつも私の手助けをしてくれました。沖縄で観光したい時には、親戚は私の為に運転をしてくれました。例えば、南風原の親戚は、南風原の綱引きに行ってくれました。また、おじさんと国際通りで10,000人のエイサーパレードを見ました。

私はまた親戚と一緒に沖縄の伝統的な行事に参加しました。一つの伝統的な行事はシーミーです。シーミーの日にウチナンチュ達は一緒に家族のお墓に行きます。お墓で皆はお墓を掃除して祖先にお祈りします。普通にお墓で食べ物を提供して家族と一緒に食べる。この時私はシーミーを初めて経験しました。シーミーの意味はとても良いのでロサンゼルスに帰る時、私の家族とシーミーを祝いたい。

私は親戚と初めて沖縄のお盆も経験をしました。ウンケー、沖縄お盆の初日に私は親戚の家に行って仏壇で先祖に祈りました。後で、皆一緒に晩ご飯を食べました。ウークイ、沖縄お盆の最終日も、親戚の家に帰って一緒に晩ご飯を食べて、家の仏壇に祈りと捧げ物を与え、先祖にウチカビも燃やしました。晩ご飯の後で、おじさんと南風原のエイサーを見ました。沖縄お盆はとてもいい沖縄の伝統的な行事です。私は親戚と一緒に時間を過ごせてよかったです。

新年には、南風原の親戚と一緒に年越しをしました。12月31日に親戚と年越しそばを食べて紅白歌合戦を見ました。また、1月1日に平和祈念公園に行って、初日の出を見に行きましたが、この日は曇りで初日の出が見えませんでした。そのあと、お寺にお参りをしに行き大吉を引きました。次の日は、親戚と一緒にムーチャーを作りました。





## 私の彼女の家族

私は沖縄に来る前、ロサンゼルスでウチナンチュの女性とデートし始めました。沖縄に行くつもりなので、彼女の家族に会いたい。沖縄に初めて来る時、彼女の家族と晩ご飯を食べました。皆はとても優しい人です。いつでも私に手助けが必要な時、沖縄で旅行したい時、彼女の家族は彼らに連絡してくださいと言いました。沖縄で滞在中、彼女の家族は私をよく手伝ってくれました。寮のために物を買う必要があった時、彼女のお母さんは私を手伝ってくれました。私は彼女の家族と沖縄の色々な場所やイベントも行くことが出来ました。例えば、ター滝や八重岳の桜祭りに行きました。

私の彼女の家族との最高の経験はクリスマスでした。私は沖縄に住んでる為、自分の家族とクリスマスと一緒に過ごす事ができませんでした。しかし、彼女の家族がクリスマスに家に招待してくれたので嬉しかったです。私はクリスマスに彼女の家族にメキシコ料理を作りました。沖縄で滞在中に彼女の家族の一員になれたことが嬉しかったです。



## 沖縄の歴史的な場所と自然

沖縄に住んでいる時たくさん歴史的な場所に行きました。一つの好きな歴史的な場所は沖縄の城。滞在中に私は約15の城に行きました。城は500年以上前に作ったのに今でもいくつもの城が立っているので私はとても驚きました。この構造体はとても大きくて私はどうやって作られたのだろうと思いました。別の好きな歴史的な場所は伊計島の仲原遺跡です。仲原遺跡は沖縄で最も古い村の一つで、この村は2000歳以上。

同時に私は沖縄の自然を体験しました。沖縄の自然はとても綺麗です。もう一つの好きな場所はター滝です。ター滝は大宜味にあります。ター滝



にハイキングをしに行きました。ター滝はとても綺麗でした。私は滝の近くで泳ぐことができました。別の好きな場所は渡嘉敷島。渡嘉敷島はとても静かな場所。この島のビーチも海もとても綺麗。

## 結論

県費に参加する事が出来てとても幸せです。このおかげで、私の日本語のスキルが伸びたと思います。ウチナーグチも前よりもっと分かるようになったと思います。私は沖縄でたくさん歴史的な場所に行きました。この場所でたくさん写真を撮ってこの場所の歴史を研究して、ロサンゼルスに帰る時、この場所を紹介したいです。私は沖縄の文化もロサンゼルス沖縄県人会で紹介したいです。

私は親戚と彼女の家族に感謝しています。彼らのおかげで、私は沖縄で色んな体験をして楽しく過ごすことができていると思います。私は彼らにとっても助けられました。

# 変わった1年

大田弥生 (ポリビア)  
琉球大学

## 日本と沖縄の歴史

日本の歴史の授業を日本語と英語で取りましたが、歴史に出てくる人物たちの名前が非常に難しく、全然覚えることができませんでした。しかし、奈良や京都にすごく興味を持つことになりました。一番、興味を持ったのは古墳です。なので、奈良に行ったときに前方後円墳を見に行きました。思ったより大きくて、それが古墳だと言われないとわからなかったと思います。

沖縄の歴史を一年間取り、沖縄の現在から琉球王国時代のことを学びました。この一年間で沖縄の事を知ることになりました。沖縄が日本になったのは、1879年からだとは知りませんでした。もっと昔にそうなったのだと思っていました。この授業で、色々な沖縄の歴史がある所を見学しました。勝連城跡や、中城城跡など、燃えた首里城にも行きました。琉大が首里城にあったことも学びました。

## 日本と沖縄の文化

二つの文化の授業では、色々な見学と体験をしました。文化の方はなかなかわかるが多かったのですが、もっと深い知識を得たと思います。特に、いろいろな儀式の由来や理由がわかるようになりました。日本の文化では、自分たちの茶碗を作り、その茶碗を使い茶道をしました。和菓子工房にも行って、それを茶道の儀式をする時に、味わいました。他にも日本銀行や、波之上神社と寺を見学しました。

沖縄の文化では、沖縄の伝統的な家の中村家や与那原のつなひき資料館、泡盛工場を見学しました。シーサー作りや、紅型や、機織りの体験もしました。沖縄の文化の知らなかったものをたくさん学べました。



## ビジネス日本語の授業とインターシッププログラム

敬語が全然わからなかったので、最初はビジネス日本語が難しかったです。敬語だけではなく、マナーなどにも慣れていなかったもので、私にとっては挑戦でした。琉球大学は留学生のためのインターンシッププログラムがあり、ビジネス日本語を身に着けるためと日本の企業を体験するために参加しました。秋の学期に沖縄ツーリストでインターンシップをさせてもらいました。旅行会社の方だけではなく、レンタカーの方も体験させてもらいました。

この春の学期では、二ヶ所でインターンシップをすることにしました。今回は、株式会社シーサーとエアージェット株式会社です。それがとても楽しみです、コロナウイルスのことで少し心配です。



## 様々な行事

まかべ先生のおかげで何回かビーチパーティに参加しました。ビーチパーティーに参加することでいろいろな人と交流し、友達ができたので嬉しかったです。市町村留学生たちと初めて会ったのはビーチパーティーでした。多くの市町村の留学生たちともお友達になれて、大学でもいろいろな国の留学生たちとも友達になりました。



この一年は、家族の絆が深まったとも思います。8月に私の甥が参加していた、沖縄ヘルツを探る旅と一緒に参加してもらいました。一緒に、おじーの姉とおばーの姉に会いに行きました。おじーは、姉が老人ホームに入ってから連絡が取れていなかったもので、会えてすごく嬉しかったそうです。おばーの方は、もう認知症なので姉のことは覚えていないと思いますが、姉の方はすごくおばーのことを憶えていて感動しました。



## 県外旅行

夏休みには東京、埼玉、横浜と栃木に行きました。この旅行は、家族に会う旅行でもありました。もう何年も会っていなかったおじさんやおばさんや従兄弟たちに来て何よりでした。

東京には、見るものが多くあって、何を見るか選ぶのも大変でした。博物館と科学博物館も行って、すごく大きくて、きれいでした。上野動物園にも行きました。しかし、もう足が疲れて、夏だったので大変でした。パンダは見れたので嬉しかったけど。

冬休みには関西の方へ行きました。関西に興味を持つようになったのは、日本の歴史で、奈良と京都にいろいろな歴史的な場所があることを学んだからです。結局、お寺参りばかりした感じがしました。最後の日は神戸でちょっと違った日を過ごしました。神戸では、異人館めぐりツアーをやりました。異人館だけではなく、神戸全体にヨーロッパの影響が見えて、海外に行った感覚でした。

その他、子弟等留学生として、伊江島と広島にも行きました。伊江島では、おばーの家に残り、おばーの昔の話を聞き、ビーズを買ってストラップを作るのも教えてもらいました。沖縄料理もたくさんごちそうしてもらいました。

広島では、侍になりました。切られる役になってとても嬉しかったです。アニメで聞いたことのあるセリフを言ったりしてとても楽しかったです。平和記念資料館に行き、原爆の怖さを見ました。資料館だけではなく、旧日本銀行広島支店や原爆ドームでも原爆のことを学びました。広島城天守閣にも行きました。はじめて日本式の城の中に入りました。ウサギの島にも行き、かわいいウサギに餌をあげました。残念ながら、毒ガス資料館の閉まる時間が早まっていたので、私たちがついた時にはもう閉まっていた。



## 公文

漢字能力を圧倒的に上げたく、公文に入りました。最初のころは、子どもの間で勉強するのに違和感がありました。しかし、だんだん慣れました。三年生程度の漢字しかわからなかったのが、今では、6年生ぐらい漢字ができるようになりました。琉球大学の授業、特に、アカデミック日本語、ビジネス日本語と日本語文化でも新しい単語を数多くまなびましたが、より多く漢字を読むのと書くのができるようになったのは公文のおかげだと思います。

## キックボクシング

8月からキックボクシングを始めました。風邪をひかなければ、ほぼ毎日通っていました。パンチと蹴りがなかなかよくなってきたと思います。



# 飛べよ

ワンリージン (台湾)  
琉球大学

筆者、ワンリージン、2018年、ウチナンチュ子弟等留学生受入事業というプログラムによって、沖縄に来た。なぜ選ばれたのか分からないが、この一年間精一杯過ごしたいと思った。合格発表まで、仕事を辞めることになり、全身全霊で履歴書と作文を作成していた。その際に、自信満々で私の日本語の先生に「私、絶対選ばれるよ」と言った。いったいどこからの自信だったのか。しかし、いつも緊張し過ぎて日本語をうまく話せなかった私は、「え・ら・ば・れ・た」なんとも不思議なことであった。応募者60名以上の中で選ばれた私は、本当に言葉に出なく、心の底から沖縄県政府、神様、日本語先生、友人に感謝していた。筆者にこのような機会を与えてくれ、誠にありがとうございました。面接の際に、沖縄県のために何ができると聞かれ、筆者は「台湾人に沖縄についての観光情報を伝えたい、皆に沖縄の美しさを伝えたい」と言った。そこで、ブログも始め、ネットで沖縄についてのイベント、グルメ、あるいは豆知識を伝えている。卒業してもそれはし続けたいと思う。

この一年間琉球大学で日本語を勉強していた。同時に沖縄文化、歴史とビジネス日本語も学習していた。学校のフィールドワークのおかげで、車が運転できない私たちを様々な場所に連れて行ってもらえた。この期間、最も印象に残っているのは、



深夜一時の万座毛夜光虫探検。  
結局、満月で見えなかった。



フィールドワーク



インターンシップ



監獄みたいな寮。  
中には非常に寒い。



見ないで



綺麗？





グルメ。コーヒーとパンに私は人生を救われた。



学校の先生から琉球王国、沖縄風習、戦争、史跡等、多様な知識を教えてくれたことだ。沖縄は本当に素晴らしいところである。ありがとうございました。

学校で日本人の友人も、留学生の友人も仲良しになれた。皆様、違う国々だからからこそ、お互いの異なる点を理解し尊重し合える。生きていて良かった。





## 県費生の皆さんへ

2019年4月から2020年3月まで、この一年間、いろんなお世話になり、どうもありがとうございました。この一年間、様々なことをしたり、行ったりして、本当に楽しく、最高の一年間でした！！私のことを忘れないでくださいね。

**メリサ**：前学期いつも部屋でごろごろさせてくれてありがとう。娘のメリサは、帰国したら、しっかりしてくださいね。遅刻しないように。ポリビアに行く時、部屋また泊まらせください～永遠に愛してるよ。

**弥生**：向こうに住んでる弥生は、かなり面白くて大胆な人だ。いつもフライパンを借してくれてありがとう。弥生と何でも話せる。。。。。。何でも。(笑)

**キョンソン**：時々部屋に遊びに行かせてくれてありがとう。キョンソンが作ったチキンが本当に美味しかったよ。食べたい～

**盧**：いつも品物を借してくれて本当にありがたかった。一緒に買い物に行ったり、散歩したり、ありがとう。盧はとても優しい人だよ。帰国後もたくさんお金を稼いでくださいね。

**真理子**：真理子の社交力は本当にすごい、誰にもたくさん話せる(拍手)。一緒に空手をやる時間は楽しかったよ。誘ってくれてありがとう。帰国後も仕事も頑張ってね。

**Lucia**：前学期に部屋に泊まらせてくれてありがとうね。本当に助かったよ。あの間、Luciaと一緒に美味しい物を食べたり、色んなことを話したり、楽しかった。携帯を落とさないように大事にしてね。アルゼンチンに行く時に、部屋また泊まらせてね。チョウ。

**男性たち**：帰国後も頑張ってください。あまり話すことはなかったが、でも皆は良い人だと思う。台湾に来たらまた連絡してくださいね。





私と美しい思い出をたくさん作って、皆さん、ありがとうございました。  
さよなら

# 夢のような思い出

盧雪嬌（中国）  
琉球大学

沖縄に来てからあっという間に一年が経ちました。この一年間を振り返ると、まるで長い夢を見ていたようです。今でも鮮明に思い出されるのは初めて那覇空港に到着するところに目の前に現れた綺麗な沖縄の海でした。海面がきらきらと星のように輝いていました。そんなにいい景色をみながら、私は期待と不安が入り交じった気持ちで着陸しました。その日から沖縄の方々いろいろな世話になってきました。



私はこの一年間ずっと琉球大学の寮に住んでいました。慌てて入学の手続きを終わらせてから、他の学生たちと一緒に大学に通い始めました。日本語を勉強したことはありますが、沖縄に来た最初の頃、日本語にはまだ慣れていなかったもので、なかなか難しいと思いました。知り合いもいませんし、梅雨のせいで毎日雨が降り、とても寂しかったです。だが、それはほんの短い時期でした。時間が経つにつれて沖縄での生活に慣れました。琉大でいろいろな国の人と出会って、たくさんの友達ができました。皆さんのおかげで辛い時を乗り越えることができました。30代の社会人であるが、私は大学時代に戻った気分になりました。毎日、太陽を迎えて千原橋を渡って、千原池のいい風景を見回して教室に向かいました。授業は週に9科目ありました。したがって、試験や宿題に追われることも少なくありません。もちろん勉強の積み重ねに嫌になった時もあります。だが、いい結果を出せるように最後まで頑張ってきました。日本語も少しずつ上達しました。



琉大では日本語はもとより、「沖縄の文化」、「沖縄の歴史」、「日本の文化」など様々な科目も取りました。先生たちにいろいろ世話になりました。授業で可愛いシーサーの手作り、紅型、絣など沖縄の伝統的な文化を体験することができました。そして、中村家、与那原大綱ひき資料館、沖縄県立埋蔵文化財、首里城、勝連城跡など数多くの資料館や世界遺産を見学できました。「日本の文化」の授業は宿題がいっぱいあって大変だったが、他の国の学生と様々な交流ができて、凄く勉強になりました。和食や茶道も体験しました。当地の小学生との交流活動に参加しました。二人の小学生からの手紙を受け取って心が温かくなりました。授業だけではなく、私は友達に誘われて初心者として琉大の卓球サークルにも参加しました。週一回の練習は楽しかったです。若い先輩たちがいつも丁寧に教えてくれました。先輩と友達のおかげで、卓球を学ぶ楽しさを知ることができました。本当に感謝しています。夏休みと冬休みには、私は友達と一緒にいろいろな所に行ったり、美味しい物を食べたりしました。



県費留学生として、様々な見学や研修などに参加できてありがたいと思います。慰霊の日に、私たちは糸満市摩文仁の平和祈念公園に行って、沖縄戦について歴史的な知識を学びました。戦争中の人々の悲しみを深く理解できました。文化研修を通じて、沖縄当地住民の生活をもっと知ることができました。伊江島研修と広島研修のおかげで、素晴らしい景色を満喫しました。そして、明桜大学で世界ウチナーンチュ青年サミットに参加して各国の若者と出会って、様々な声を聞きました。いい体験になりました。



時間が経つのが早いです。一年は長いですが、まもなく帰国の日が来ます。ここで、何が自分を支えていたかというと、沖縄の方々と県費留学生の皆さんと自分の帰りを待っている家族だと思っています。皆さんに心から感謝しています。この一年間はきっと私の人生の貴重な思い出になります。いつか、また沖縄で再会しましょう。本当に大変お世話になりました！皆さんの未来が沖縄の海らしく輝くように心から願います。



# 1年の特別でやりがいのある留学生活

ファンキョンソン (韓国)  
琉球大学

初めて地元を出て他国で1年の生活を期待しながらも緊張した。でも、今回の留学の機会は次にはないだろうと思って応募したが、受かったという話を聞いた時は本当に嬉しかった。最初は地元で就職をする目的が大きかったが、私の母の実家で話だけ聞いていた沖縄の話を実地で直接経験できるという考えでもっと期待していました。

しかし、私は母が日本人だが日本語が下手なので単純に好きなアニメやマンガで知っている日本語レベルで沖縄に来るようになって心配が多かった。でも、琉球大学で日本語を学ぶようになって、不安だった気持ちを落ち着かせる事ができた。一緒に1年間会うことになった県費留学生友達と一緒に他の国または同じ韓国から各自の目的のために勉強しにきた留学生の友達と楽しく日本語と沖縄の歴史と文化を勉強できた。

直接他国の友達と会ってお互いに違う文化的理解と生活習慣を聞くことができ本当に不思議で面白かった。韓国では単純に覚えなければならないという感じで勉強していたので、ここでは生活しながらの使いたい気持ちで一日ほとんどくらい日本語を賃上げていたからもっと早く、そして口で無意識に話しながら学ぶことができた。

そして、日本語を勉強しながら、一番知りたかった沖縄のことを授業でも学び、訪ねてみた。思ったより韓国との文化的、歴史的に共通点が多いことが分かった。慰霊の日時、平和記念公園に行って資料館で見た沖縄戦争当時の沖縄の凄惨な姿を見て、当時日本に支配されていた韓国のような苦痛と切なさを感じた。

7月夏休みが始まり、沖縄の人たちが一番誇らしく思っていて象徴とする首里城に行って琉球時代の地位を感じる事ができた。韓国と琉球は中国の影響が大きく、王宮も似たような感じがした。その雄大さを見た時"すごい"と、この言葉しか出なかった。その後、帰る前にまた来ようと思っていたところ、残念ながら首里城が燃えてしまったという知らせを聞いたときは悲しかった。あと、見学を通じて沖縄の伝統文化を学ぶことができましたが、琉球時代の王族の衣服である"紅型"と庶民の衣服である"かすり"作り体験や国際通りにある市場を見学したり、那覇大綱引き大会や与那原の綱引き資料館にも行ったり、世界文化遺産である勝連、中城、座喜味城跡も行って見たが、ただ楽しむために行ったのではなく、存在と有名になった理由の歴史的な意味を知っていく楽しさを感じる事がで



きて嬉しかった。

いろんなところに行きながら学んでいく留学生活の中、多くの人たちとの出会いもあったけど、同じウチナンチュで世界各国の出身の人たちとバーベキューパーティーをしながら花火を楽しんだり、琉球大学では外国人留学生と在學生と連結させるプログラムであるチューターで韓国に興味のある友達に出会ったが沖縄で生活するのに助けられながらお互いに自国の話をしながら感情を共有した。

特に、感激した出会いがあった。寮から遠くない所によく行くパン屋があったが、会計の途中、オーナーとバイトさんが私に声をかけてくれた。琉大でよく見たというバイトさんの言葉に私は驚いて、恥ずかしがりの私に言葉をかけながら仲良くなりたいと言ってくれて本当に嬉しかった。帰る前に感謝の気持ちを伝えたくて、韓国の扇子をプレゼントしたが、喜んでくれて私も嬉しかった。その後、パンが食べたくてまた行った時、挨拶を交わしてバナナジュースをもらった。

この留学生活で遠くに感じた幼い頃に一度しか会えなかった親戚の方々と日本語で話しながら安否を伝えられるようになったし、新しい出会いと新しい世界を見て学ぶことができた。絶対忘れることができない経験であり、私に自信感を持つようにしてくれた一番大事な人生にやりがいのある思い出だ。



# 「350日間の旅」

上地メリサ（ポリビア）  
琉球大学 / JICA 沖縄センター

日数で見れば多く感じることもあるが、私たちにとって忘れられない時間になるのだろう。今でも沖縄に着いた日を思い出すと懐かしく思えてきます。その時はみんな不安でいっぱいだったことも、新しい生活が始まる楽しみという気持ちとともに来たことを思い出します。留学を経験する誰もが思う長いようで短い時間だったと心から感じるすることができます。そして、今まで過ごしてきた時間と比べ物にならないくらい濃い一年間でした。



まずは大学で学んだこと、日本語以外にも沖縄の歴史・文化に触れることができたのは本当に良かったと思います。普段では知ることのできないものや知識を得ることができました。ある沖縄の歴史の授業では先生からの質問で「なぜ島人ぬ宝を知っているのですか」と聞かれた私から出てきた言葉は「ウチナンチュだから」でした。この小さな出来事で自分のアイデンティティを感じる瞬間でした。他の人からしてみれば普通の曲なのに私たちの中では当たり前染み込んでいることに気づきました。大学生活はとても楽しい日々でした。





後学期から職場体験に移った私は今までしていた生活とは真逆で新しいことだらけでした。人生で初めてに近い仕事経験で最初は毎日緊張していました。でも時がたつにつれ、職場の仲間のおかげで楽しく学ぶ日々を過ごすことができました。普通の生活では味わうことのできない日々でした。JICA 沖縄センターのみなさんには心からありがとうの気持ちでいっぱいです。

留学の中ではたくさんの研修を体験することができました。沖縄本島、離島そして県外まで数々のアクティビティがありました。伊江島の民泊研修では沖縄ならではのブクブク茶を作っておもてなしかたを教わったり、自然と触れ合ったり、心の温か



い現地の人などと良い思い出を作ることができました。最後の広島研修では色々な場所を訪れ、県費の皆と忘れられないたくさんの思い出を作ることができました。

もう一つの大きな経験は一人暮らしでした。家から長期間出るのが初めてでワクワクしていました。でもやはり住んでみれば大変なこともたくさんあり、日々親の苦勞に気付いた私は感動してしまいました。掃除から自炊、自分で自分のことを解決することを学ぶことができたのは凄く嬉しいですし、これからの人生にも大きく役立つことだと思っています。

この旅の中で一番大切に思うのは人との出会いでした。一年間でこんなにもたくさんいい出会いがあってもいいのかと思うくらい、良い人たちと繋がることができました。大学では色々な国の人々に会うことができ一緒に時間をたくさん過ごした結果、かけがえのない友情が生まれました。今思うと、毎日のように会っていた人たちが各国にいることが不思議に思えてくることもあるけれど、でもそれ以



上に自分は大きな宝をもっているんだなあと心から感じています。一人一人が私の人生に貢献してくれたことはものすごく大きなもので自分自身の成長にもつながったと思っています。留学の中で一つの目標でもあった視野を広げることは、彼らのおかげで達成できたことに間違いのないと思っています。

違う国の人々と時間を過ごすことで新しい価値観や考え方を身につくことができたと思っています。これからの自分にとってすごく良い一年間でした。人間として成長できたことが良かったです。



# カナダ県費留学生の一年

パターソン真理子 (カナダ)  
沖縄国際大学

沖縄伝統空手を始めると決めた時に、私は何をするか、何を習うか、全然分からなかった。6月にブラジル人の県費留学生に空手の稽古に誘われて、最初に体験した。空手を教えている方は大城光平さんです。私と同年だが、彼は沖縄と空手に対する熱さを持っている人で、私ももっと沖縄伝統空手のことを習いたかった。

沖縄伝統空手の違う流派があり、小林流、剛柔流、と上地流の歴史や違う特徴を習い、沖縄空手の大切さに気づいた。地理と歴史によって色々な流派が形成されたと先生に教えられた。そして型を習い、型の意味と戦う時の使い方を学び、その動きだけでなく、型が生きているようにしなさいと教えられた。私は武術をやったことがなかったので、先生から習ったことにとっても感動した。例えば、道場に入りする時、ちゃんと昔の先生達の写真がかかっているところの方に礼をしないといけない。それと稽古中に先生が水を飲んでもいいと言ったら水を飲みに行く前に皆が先生に礼をする。これは武術の文化である。最初の時に、私はいつも忘れていたが、今は礼をするのは習慣になり、考えずにするようになった。

毎週の月曜日と金曜日に豊見城の道場に行き、同じ人と稽古をし、皆と仲良くなり、本当に嬉しいで



ワールド王修会の先生達

す！カナダに帰るが、ワールド王修会の会員として空手を続けたいと思っているし、沖縄、カナダやフランスの空手セミナーに参加していきたいと考えています。

## 沖縄舞踊

ビーチパーティーで前の県費留学生と沖縄舞踊のことを話し、彼女の通っている道場を紹介してくれた。私はせっかく沖縄にいるので、ちょっとだけでも、沖縄舞踊を体験したかった。一緒に通っている、きょうちゃんもいつも明るく、先生にも優しく教えて頂き、毎週土曜日の朝をいつも楽しみにしていた。きょうちゃんも友達と会うために、来年、バンクーバー、カナダに来る予定なので、バンクーバーでまた会う約束をした。これは世界のウチナンチュネットワークの力だと思い、カナダに帰っても色々な人と会うことが出来るのが嬉しい！まだそんなに上手に踊れないが、体験したのが良いと思う。沖縄の踊りはとても素敵で出来る人を見ると尊敬する！



## 友達



県費留学生のプログラムがあるおかげで、私は自分の祖父母と母の故郷を知り、色々な人と出会い、友達もたくさん作った。高校の時から私は日本に住みたかったが、海外に行けるかどうかあまり自信がなかった。ずっとカナダに住んでおり、そしてバンクーバー沖繩友愛会以外に、私は沖繩のことがあまり分らなかった。今考えてみると、ちょっと寂しいと思う。しかし、今の私は前の私と違う。沖繩で一人暮らしをし、大学に通い、沖繩の文化を学び、初めてウチナーンチュ社会についての勉強し、沖繩が好きな人と出会った。一年間だけでこんなに出来ると思わなかった！



他の留学生と出会ったら、皆さんはとても頭が良く、明るく、すごくいい人たちでした。インドネシア、ミャンマー、韓国、とマカオの留学生が勉強と仕事をするために、沖繩に来て頑張っている。私はすごく感動した！新しい言語がこんなに上手に話せ、そして仕事があってもまだ大学に行けるのはすごいと思う。私も皆さんみたいにもっと頑張りたいと思う！

最初から最後までりのちゃんが私と英明くんをサポートしていた。沖繩の人はいつも温かさを私達に見せたので、心から感謝している。大学で最後の発表会でとても素敵なスタバタンブラーをもらい、りのちゃんとの写真を撮った。将来に、また会いたいな！

沖繩の自然はカナダとまったく違うので、私はこの一年間で、たくさん写真を撮りました。やはり沖繩の自然は綺麗だと思う。花と葉っぱの色が鮮やかだし、見たことのない草木もよく見つけた。カナダに帰ってから、沖繩の写真を見て、沖繩の涼しい空気、と温かい太陽を思い出したい。沖繩は私の心にずっと残る。



# 沖縄の伝統空手

マンゲス英明（ブラジル）  
沖縄国際大学

私は幼い頃から、武術や、武道に興味を示していたが、決して武術を始める機会を得ることはなかった。ブラジルでは、空手は武術として誰にも知られているが、高校時代に、沖縄についての本を読書していた時、初めて沖縄は空手発祥の地だということが分かり、自分の祖父母も沖縄出身なので、その瞬間から、それを誇らしく思うようになったという記憶がある。

2019年に県費留学事業に携わることになり、沖縄ではウチナーネットワークの交流会で空手をやっている方と自分の関心について話し合い、練習の日に招待されたことが空手を始めるきっかけとなった。

5月15日から、豊見城市にある小林流派の空手道場で熱心に空手の稽古を始めた。その道場では大城光平のもとで、小林流の空手の技を習っているが、そればかりでなく、大城さんに伝統空手と競技空手の区別、型の意味や、沖縄の伝統空手の歴史と哲学などについても色々教えて頂いた。

小林伝統空手ワールド王修会という国際組織の会員になることで、沖縄県へ伝統空手を習いに来た様々な外国人と知り合い、何故沖縄の伝統空手に興味を示し始めたのか話して頂いたり、ワールド王修会を創立した師匠の知念賢祐に直接教えて頂いたり、空手会館で沖縄空手、古武道の演武会を見に行ったりしたので、大変貴重な経験になったと考える。

自分にとって、空手をやることは人間として成長するための忍耐力をつけ、人間関係を築く手段でありながら、自分のアイデンティティーに繋がるものでもある。



## 沖縄国際大学

この一年間、沖縄国際大学に留学することになった。

ルーツのある沖縄で、主に日本語力を上達させながら、琉球語、沖縄の伝統文化や、沖縄事情などをより広く深く知るために、勉強させて頂いた。

前期に、外国人向けの日本語の授業を受けながら、聴講生として沖縄事情に関係のある講義を取った。例えば、沖縄の歴史、沖縄の基地問題、沖縄戦、沖縄の社会、琉球語の講義を取り、できるだけ沖縄に関する知識を深める努力をした。

後期に、日本語能力試験1級に受かるために、日本語の授業だけに集中することに決めた。12月に試験を受け、合格することができた。

それ以外に、沖縄国際大学の留学生向けの日本語弁論大会に参加し、「多文化や、異文化を知るメリット」というスピーチで特別賞を受賞することができた。当日、自らの出番まで、弁論大会の司会もやりましたので、精神的に疲れていたが、これはいい体験になったと考える。

この一年間で、色んな友達を作り、優しい先生方に出会い、沖縄国際大学で知り合った皆さんに本当に心から感謝している。



### 特別なウチナーグチ教室

中学の時から高校の時にかけて、両親は共働きだったので、いつも祖母の家に行き、祖父母に世話を見て頂いた。祖母は戦前沖縄からブラジルに移住し、標準語があまり話せなく、常にウチナーグチで会話したので、自分にとって、ウチナーグチという言葉は思い出のあるものであり、ちゃんとしたウチナーグチが話せるようになりたいと思う。

6月から、宜野湾市の公民館でウチナーグチの授業を受けている。

1ヵ月に1回だけの授業だが、ウチナーグチを上達させたいと思っているので、



この教室へと足を運び、熱心に勉強させて頂いた。

この教室に通ったおかげで、以前よりもっと文法が分かり、全体的にも理解できるようになった。



### ウチナーネットワーク

この一年間で、県費留学生の皆さんと共にウチナーネットワークに関わる行事に参加し、色んな活動もした。

10月11日から13日にかけて名桜大学の学生会館で開催された第5回世界ウチナンチュ学生サミットに参加し、様々な人とウチナンチュアイデンティティーや、そのアイデンティティーを十分活用した沖縄と世界への貢献などについて話し合い、意見交換した。

10月30日は世界のウチナンチュの日で、沖縄国立劇場で現地人に県費留学生や、市町村の研修生の皆さんはそれぞれ沖縄で行っている活動について発表し、自国と、自分と沖縄の関わりについて紹介し、その後、参加者による三線演奏、琉球舞踊と空手演武もあった。

9月25日、沖縄NGOセンターの皆さんとカナダ人県費留学生の真里子さんと共に琉球大学の近くにある附属中学校へと足を運んだ。当日、学校で沖縄移民史とウチナーネットワークについて発表して頂き、その後、沖縄にルーツを持っている方5人に自らの背景や、沖縄との関わりについて話して頂いた。

ブラジルに帰国しても沖縄と自国のネットワークを強化するために努力しようとする。



# 人生で最高の経験

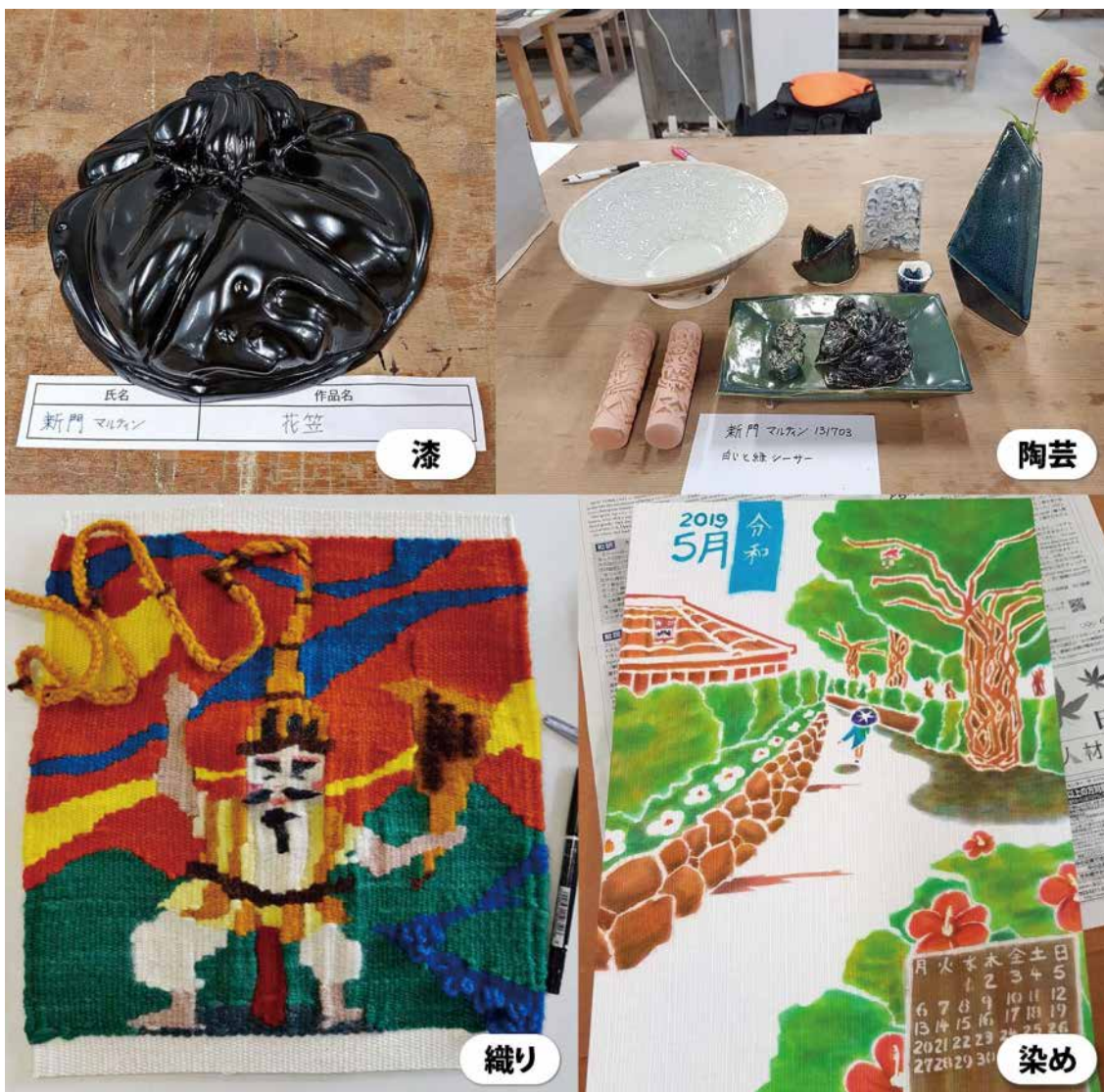
新門マルティンアンドレス「アルゼンチン」  
沖縄県立芸術大学「工芸・陶芸」







この素晴らしい経験は、那覇空港での家族や友人との再会から始まりました。彼らは私に大きな歓迎と励ましを与えてくれました。翌日から、芸大で沖縄の勉強を始めました。祖先の故郷でたくさん学べる素晴らしい機会なので、さまざまなことに挑戦しました。



最初は工芸の中で漆、染め、織りのコースを勉強しました。

- 漆コースの最初は、花笠を作りました。
- 2ヶ月目からは染めの授業で沖縄のカレンダーをデザインしました。
- その後、陶芸コースで、花瓶、お皿、お茶碗、お箸置きを作りました。
- 6月に織りのコースでチョンダラをデザインしました。

写真は工芸コースのメンバーです、皆さんは二年生です。

7ヶ月目に私は陶芸器を専門に選びました。最初にコップを作り、続いてお茶碗、大きいお皿。山田先生はたくさんテクニックを教えてくださいました。





**楽焼**

楽焼の特別なクラス。このお茶碗の楽焼のテクニックで作りました。これは日本で有名な技術です。



**登り窯**

登り窯で3日間連続で、陶器を焼きました。その時に、登り窯の扉を開閉するために木を置く作業を手伝いました。私は、30個の陶器をつくり、窯に入れました。それはとても楽しかったです。

登り窯のあとに、つぼの作り方を勉強しました。

色々な沖縄伝統つぼの形を作りました。

沖縄の伝統的な陶芸の技法であるタックワサー（貼り付け）と線彫りを習いました。タックワサーでは、シーサーと龍をデザインしました。線彫りは魚とエビ、鳥をデザインしました。技術の成長にとっても満足しています。

授業はとても楽しかったです、いつも日本人と話をしていました。皆優しくて、いつも私の手伝いをしてくださいました。そのおかげで、私は早く学ぶことができました。





線彫り

大きいお皿で線彫りのテクニックも練習しました。陶芸家である金城の魚とエビのデザインをコピーしました。そして、鳳凰も描きました。



手作りの特別なつぼクラスで、私は2つの大きなつぼを作りました。

1つは、2匹の竜のデザイン、2つめは組踊り300周年のつぼを作りました。







最後にシーサーと2つの竜を作りました。  
ひとつの竜は、三線を立てるために作りました。



2回登り窯

2月13日から19日にかけて、2回目の登り窯をしました。









世界のウチナンチュの日のイベントでカギヤデフウとヌブイクドゥチを踊りました。そして、私はウチナーグチでプレゼンテーションを行いました。



琉球舞踊の練習を始めました、先生は、たまなは口ミナです。一緒に首里城でかぎやでふうを踊りました。うれしかったです。



色々なイベントで三線や琉球舞踊のプレゼンテーションを行いました。アルゼンチンで学んだ三線と琉球舞踊を披露できて、とてもうれしかったです。



夏休みは三線工房で三線の作り方を勉強しました。私は知念デークの形を選びました。ちょっと難しかったけど、興味があったので、アルゼンチンに帰った後も、この三線を作りたいです。



首里城は燃える前に訪れることができました。



沖縄には、たくさんきれいなビーチがあります。

- 伊江島では沖縄で一番高い山に行きました。
- 石垣のシーサー農園は大好きな場所です。面白くて大好きなシーサーをたくさん見ました。
- 座間味島でシュノーケリングをしました。たくさん魚がいました。
- 竹富島はとても古いまちです。とても面白いです。
- 久高島には美しい景色と祈る場所がたくさんあります。私は自転車で旅行しました。小さな島です。

研修中に私を支えてくれたすべての人に感謝しています。彼らのおかげで、私の目標をすべて達成することができました。

特に芸大大学の比嘉学長、アルゼンチンの沖縄センター、特に陶芸の先生である山田先生、島袋先生、金城先生、杉山先生には、毎日教えてくれたことに感謝しています。そのほかの工芸の先生方。そして、日本語のまじま先生、真壁先生、岸本先生、平田先生、比嘉アンドレス、そして金城デリア、チホ、タマキ、又吉ガブリエラ先生、私を大いに助けてくれた2、3、4年生の皆さん、共に学んでいる県費留学生の皆さんのことを忘れません。

陶芸では、沖縄の伝統技術を学びました。シーサーとドラゴンも作りました。三線と琉球舞踊を練習し、首里城と国立劇場おきなわで踊ることができました。ラジオ沖縄でも三線を演奏できました。私は少しウチナーグチを学び、日本語を上達させました。この研修は、私に多くの沖縄の島々を訪れる機

会を与えてくれました。

私は家族や友人を訪ね、さらに多くの人々に出会いました。私がやろうとしていたすべてのことを達成できてとてもうれしいです。この研修は、夢を実現し、学んだことを自分の国で共有することができます。沖縄に興味のある人は誰でも特別に奨学金を得てユニークな経験ができます。繰り返しになりますが、辛抱強く様々なことを教えてくれたすべての人に心から感謝します。



# 沖縄の思い出

金城ルッカス秀樹(ブラジル)  
沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻

私は金城ルッカス秀樹と申します、日系うちなーんちゅ 4 世です。  
ブラジルで琉球古典音楽をやっていましたが、ますます勉強したいと思いました、それで、この留学プログラムのおかげで、沖縄に来て琉球古典音楽を勉強することが出来ました。  
しかし、古典音楽以外にもいろんな事を学びました、私は沢山の場所と人に会いました。  
新しい生活が始まりました。

私は最初の 3 ヶ月は、新しいルーティーンに適応し、いろんな新しい事を学びました。  
私の親戚は適応段階で私を大いに助けてくれました。

親戚は私が家にいるように感じるのに大いに役立ちました。  
そして、彼らに対する私の感謝の気持ちは永遠です。

4 月に、私たち留学生は沖縄県の副知事に紹介されました。

大学の授業が始まりました。先生方はとても親切でした。  
すぐ、5 月に最初の演奏会がありました。

そして 6 月に慰霊の日でした。  
沖縄戦で命を落とした人々に敬意を払う日だった。  
私は生存者の話を聞きました。そしてそれはまた沖縄戦争の苦しみを生きた私の家族の話を思い出しました。





私は一年中たくさんの活動をしました、その内一つは三線の製作と維持で、それに加えて自分で楽器を作ることでもできました。



2019年に沖縄で組踊の300周年記念公演がありました。そのために私が大学で3ヶ月間、お稽古が沢山ありました。こんな素晴らしいイベントに参加したのは初めてでした。いい経験でした。

その後に、大学でいろんな演奏会に参加しました。

1月には最後の大学の学内演奏会で、私が独唱をやりました。大変緊張しましたが素晴らしい経験でした。







大学の活動に加えて、私は留学生と多くの活動をしました。これらの活動では、沖縄の歴史と文化について多くのことを学びました。

多くの友人を作ることに加えて、これらの活動は私のうちなーんちゅのアイデンティティを強化します。

そして、9月に多くの市町村の研修生が沖縄に来ました。

研修生達と、統合イベント（学生サミットー名桜大学）に参加し、レクリエーションゲームに加えて、芸術的なプレゼンテーションを行いました。





また、八重山民謡を学び始め、大会に参加しました。先生は私を教えるのに多くの忍耐を持ち、いつもとても親切でした。

老人ホームで民謡ライブをやりました。



私は多くの親戚に会いました。初めて会ったのですが、すぐに仲良くなりました。そして、親戚と祈りに行きました。

私の門中（一門）の話を沢山聞きました、500年以上の歴史。



そして、留学生全員で最後の活動は広島研修でした。広島での研修は、日本文化について多くのことを学びました。

そのおかげで、沖縄以外でも非常に豊かな経験をする事ができました。

そして、私は日本のさまざまな文化を認識しました。



1年間、私は多くのことを学び、多くの人々に出会い、沖縄で素晴らしい経験をしました。私は自分の起源を知り、自分自身のアイデンティティについてよりよく理解するようになりました。

今、私は日系人というウチナンチュの魂を持つブラジル人だと言います。

この留学プログラムを促進してくれた沖縄県にとっても感謝しています。

金城ルッカス秀樹

令和2年3月2日

# 一年のいっぱい経験

安富祖 末吉 アレハンドロ (ペルー)  
沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻

この一年間で色々な経験をしました。色々な事を学んだり、色々な人に合ったり、色々な事をやったりしました。確かに成長になりました。

最初に4月6日沖縄に着きました。親戚達や友達や沖縄ペルー協会の人達や沖縄県国際交流・人材育成財団の根来全功さんが迎えに来ました。それから親戚達と過ごしました。たくさん食べたり話したりしました。

8日に学校が始まりました。沖縄県立芸術大学で、一年間琉球古典音楽を勉強していました。そこで日本語、三線、地方、笛、胡弓、太鼓、ウチナーグチ、琉球古典の歌詞と琉球古典音楽の理論を勉強していました。

最初は皆が長い時間でやっていて、学校のレベルが高いので出来ないと思いました。けれど一生懸命勉強してその結果他の学生のレベルに合わせる事ができました。包括的に他の学生の尊敬を得られました。



学校の授業以外に色々なイベントに出演できました。例えば5月5日平和記念公園で子供の祭りに出ました。10月26日に移動大学というイベントで、伊江島で演奏をしました。12月22日に名護市民会で島袋功先生の発表に出ました。先輩達や先生達と弾ける機会だったのでいっぱい勉強になりました。たくさん学ぶ事がありました。



また、2つ大切なイベントがありました。一つは5月4日と5日に組踊の300周年の記念のために華風というイベントに沖縄国立劇場で出演をしました。このイベントでは特別な舞台を作って特別な踊りをやりました。その地方の踊りをしました。その舞台と踊りが多分20年後までにもう一回やる予定があるとされました。とてもすごい経験になりました。けれどそのイベントのために夏休みをなくしました。いっぱい稽古と練習がありましたから。

もう一つは1月17日に後期の学内演奏会を行いました。このイベントは独唱しました。けれど最初は緊張したので全然出来ていませんでした。けれど失敗がだめだと思ったので一生懸命頑張ってぎりぎり出来ました。先生達や他の学生達にほめられたのでとても嬉しくなりました。この経験のおかげでレベルアップを出来ました。



学校以外に色々な活動をしました。例えば私の一つの目標は琉球古典音楽の先生になれるようにコンクールの新人賞を受けました。そのために4月から準備をして大変勉強しました。あと7月29日と8月8日に歌三線と笛の試験を受けました。両方合格出来たので新聞に出ました。とてもいい経験になりました。残念ながら免許証をもらう式に行けませんでした。あの日、日本語能力試験を受けましたから。でも学内演奏会の経験のおかげで3月に教師免許の試験を受けるので今準備をしています。



他の目標は日本語能力試験のN3を受ける事でした。なので、受かるように毎週、那覇市と宜野湾市の日本語サークルに参加していました。あと12月1日に試験を受けました。この試験も合格出来ました。もちろん勉強する事だけではありませんでした。色んな国際交流のイベントに参加したり出演したりしました。例えば那覇の国際交流パーティー、ネパールのお正月のイベント、JICAの国際交流スポット大会、ユニアスタディツアーの活動、ペルーの独立記念日のお祝い、ブラジルの独立記念日のお祝い、ブラジルのアギア・ドゥ・オロというサンバチームのサンバの授業、色んな世界のウチナンチュの関係ワークショップ、世界ウチナンチュ学生サミットに参加しました。



あと移民の記念日のお祝い、日系の記念日のお祝い、ウチナンチュの記念日のお祝いも参加し、世界ウチナンチュ学生サミットで、演奏もしました。



市町村の研修生達と県費留学生達と色んな活動をしました。例えば7月と9月に皆でビーチパーティーをやったり一緒に色々なイベントを行ったりしました。



沖縄県国際交流・人材育成財団で、色んな研修と活動をやりました。4月25日に県庁で謝花喜一郎副知事に会って挨拶し、ちょっと話しました。その後歓迎会をしてもらいました。

その時色々な国際交流の関係の人達と県庁の人達から色々なアドバイスを教えてもらいました。みなさんは私達にとっても優しいです。

6月23日に平和研修をしました。その日は平和記念公園で博物館を訪れたり慰霊の日のセレモニーに参加したりしました。それから吉嶺全一さんに会いに行きました。吉嶺さんは戦争の生き残りです。吉嶺さんに自分の戦争の経験を教えてもらいました。その日は戦争が残酷な事を知りました。けれど一番印象的な事は許す事でした。平和を守らなければならないと思うようになりました。

8月16日歴史の研修をしました。この研修で県立博物館を訪れました。そこで新城俊昭先生に琉球の歴史を教えてもらいました。とても面白かったです。

9月2日から4日まで伊江島で民泊の研修をしました。この研修で伊江島の人達の生活の事を学びました。そこで山城家族のお家に泊まりました。その3日間で伊江島の案内をしてもらって自分の仕事や生活の事を教えてもらいました。

次の月、演奏しに行った時、山城のお母さんに会えたので嬉しくなりました。

11月15日文化の研修をしました。この研修で平和通りの案内をしてもらいました。前に平和通りには、よく行ったのですが、案内のあとは違うように見えました。たくさん面白い事を学びました。それからビンガタを作りに行きました。

2月17日から20日まで広島で県外研修をしました。そこで広島の歴史と文化を学びました。沖縄と比べたら似ている事がいっぱいあります。例えば人達の親切さと平和の考え方は似ています。けれど全然違うところも多いです。広島の戦争と核爆弾の事も学びました。沖縄と同じ、くるしい事が多いです。だから戦争を行わないようにしなければならぬと思います。

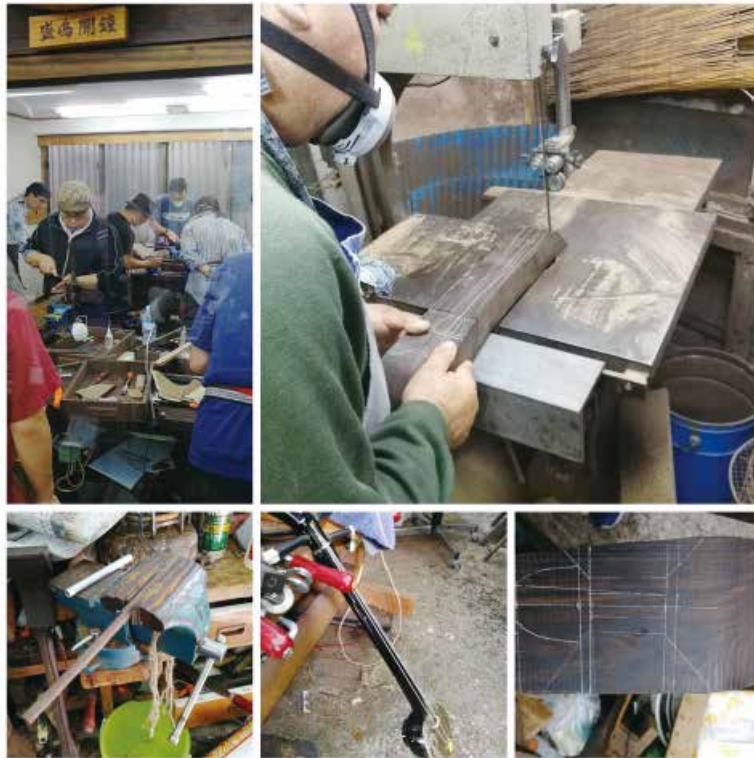


また眞壁由香先生のおかげで色んなイベントや場所に行けるようになりました。眞壁先生は13年前の日本語の先生でした。来た時の空港から今までいつも助けてくれるので、本当に感謝しています。眞壁先生は色々なところに連れて行ってくださいました。例えば琉球バイオリンのコンサート、中城城で中城のニセタ歴史サークル案内、今帰仁城の桜祭り、色んなワークショップと国際交流のイベントに連れて行ってもらいました。一緒に糸満から今帰仁まで行きました。





岸本先生と平田先生から三線の作り方を教えてもらいました。二人はとても優しく、長い時間お店で話しながら作り方を教えてくれました。とても感謝しています。



岸本先生もあちこちに連れて行ってくれました。

この一年間で色々な友達が出来ました。いつも行っている食堂からイベントで会った友達も出来ました。沖縄の人はとても優しいので友達をつくる事がかんたんです。この友達から色々な事を教えてもらったり色々な話を聞いたりあちこちに遊びに行きました。色々な戦争と歴史の話も聞きました。



首里大中町の青年会で夜に旗頭の練習をしました。11月と2月に首里城のために旗頭をあげました。すごい経験になりました。テレビと新聞も来ました。

上げる事はとても難しいですがいっぱい練習してなんとか出来ました。

青年会で公民館の活動と周りの人の生活も見れて、とてもいい経験になりました。あと青年会の人達は家族になりました。その人達にも、とても感謝しています。



後沖縄市にお母さんのおじさんが住んでいて、時々おじさんの家族と過ごしました。おじさん達にもいつも助けられました。またおじさんのお家に行った時いっぱい食べました。

金武町にも親戚がいるのでその親戚と時々あちこちに行きました。

その親戚達とはあんまり会ったことがなかったのですが、会ったらずっと一緒にいたように感じられます。みんなさんはとても親切でした。



でももらう事だけではありませんでした。黒木の杜と言うプロジェクトで黒木の畑を掃除しました。新都心公園にも掃除をしに行きました。後色々なチャリティイベントに出演して友達に三線を引けるように教えてあげました。

全部がとても楽しい経験になりました。



悲しい事もありました。例えば首里城が燃えた事とか平和通りの公設市場を移動する事がありました。大変な事もありました。例えば勉強のために色々な本や楽器や衣装や試験の申し込みを払わなければならないのでお金が足りませんでした。それとストレスを溜めて良く寝なかったので10キロ以上痩せました。けれど全部の経験のおかげで自分の目標を出来てたくさん習った事があって色々な友達を作ったので今はめちゃくちゃ嬉しいです。まだ学ぶ事とやる事がいっぱいあるので最後まで一生懸命頑張ります！

# 思い出の年

仲宗根ルシア（アルゼンチン）  
松本料理学院

今年は挑戦に満ちた年でした。沖縄に到着した時、沖縄の生活に慣れることができないのではないかと恐れていましたが、私は本当に多くのことを学び、多くの人々に出会いたかったです。そして今もうそろそろ終わりますが、今年の沖縄での忘れられない思い出がたくさんあります。

初めまして、アルゼンチンから来た仲宗根ルシアです。日系三世です。アルゼンチンで調理専門学校を卒業しました。この一年間私の目標は沖縄の文化と琉球料理を学ぶことでした。



最初の3ヶ月間は国際言語文化センターで、日本語を勉強していました。授業中に様々な国の留学生と出会い、友情の絆を築くことができました。学校でスポーツ大会に参加して、書道も体験しました。いっぱい思い出を作りました。

先生たちは優しかったです。いつも授業の準備をよく頑張っていて、それだけじゃなく、助けが必要なときいつも手伝ってくれました。皆さんのおかげで、沖縄の生活は大変ではありませんでした。

私は友達と一緒に楽しい時間を過ごして、いっぱい思い出を作りました。

7月から松本料理学院で料理教室を始めました。授業が二つあり、家庭料理は、がなは理恵子先生が担当していて、琉球料理は松本嘉代子先生が担当しています。

家庭料理教室では、和食、洋食、中華、お菓子などを作っていました。先生が教えるレシピの多くは難しいように思えるかもしれませんが、先生は生徒さんに分かりやすく作り方を教えてくれました。授業中は、私の国であまり使われない特定の材料の使い方を学びました。

私は沖縄に来る前に 琉球料理を多く知らなかったです。千切りイリチー、沖縄そば、サターアングギー、ゴーヤーチャンプルーしか知りませんでした。

授業を始めて、琉球料理のレシピがたくさんあることに驚きました。琉球料理がどれほど多様でバランスが取れているかを実感しました。

今年、松本先生のアシスタントになるチャンスがあり、新しい調理のテクニックを学びました。材料の選び方、洗い方、切り方と作り方を教えてくれました。

一年の中には撮影やセミナーや講習会などがあり、そのとき、私は準備のお手伝いをしました。

琉球新報の主催の講習会があった時、琉球料理を作りました。このイベントには600人参加しました。

学校の皆さんと一緒に時間を過ごすことが



出来て良かったです、食事に行ったり、飲みに行きました、すごく楽しかったです。皆は私にとっても親切で、私が何かを理解しなかったとき、いつも私を助けてくれました。彼らのおかげで、料理と言語のスキルを向上させることができました。

松本料理学院の皆さん、この一年間サポートしてくれた方、本当にありがとうございました。

12年前に私は琉球國祭り太鼓アルゼンチン支部のメンバーになりました。今回、練習へ行ける事が出来ました。私はいつも、グループが誕生した場所で練習をできるようにしたかった。一万エイサーや歌の日などのイベントに参加しました。

この間、親戚と再会することもできました。お互いにあまり会うことはありませんが、いつも温かく迎えてくれます。

この12ヶ月間、私たちがずっと前に会えた友人たちとも再会をいっぱいすることが出来ました。また、私は彼らを家族と思えるぐらいの友情を作ることもできました。

他の県費研修生とは家族になりました。私たちはたくさんの日を一緒に過ごし、私が必要なときに彼らは私をサポートしてくれましたから。

沖縄で親切な人々に会う機会が出来たことを嬉しく思います。

この一年間は間違いなく私の心に足跡を残した多くの人々に会うことができました。私たちは一緒に少しの時間しか過ごしてないですが、私は一生彼らを覚えているような気がします。そこで私はいちゃりばちょーでーの本当の意味を理解しました。

今年私たちが過ごしたことの全てが忘れられない思い出になるのだろう。





平成31年度 ウチナーンチュ子弟等留学生 修了報告書  
沖縄県  
発行年月：令和2年 3月  
受託者 公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団



